

# 薄氷に身のうちの瑠璃流れけり

藤田湘子

「薄氷」には、果たして色があるのだろうか。春浅い頃、水面に溶けかかった氷が浮かんでいることがある。光の屈折具合で、そこに何かが有りそうなのに気付くが、ほとんど水と同色の透明である。

「瑠璃」は、かなりはつきりした青色。洋名ラピスラズリ。また、ラピスラズリを原料とする青色顔料は、ウルトラマリンと呼ばれる群青色。赤い柘榴石やピンクの珊瑚が女性であれば、瑠璃は男性の象徴とも言える。

消えそうな薄氷のような女性に恋をして、自分の一途な思いが溢れ出したと解釈すれば鮮やかな恋句とも読めるのだが、嗚呼残念、湘子は既に四十七歳であった。

うすらひは深山へかへる花の如　　湘子